

第9回 九州圏広域地方計画協議会及び
九州ブロック国土交通懇談会合同会議 議事録

■日時: 令和8年4月28日(火)(14時00分～15時00分)

■場所: 福岡第二合同庁舎本館2階 共用第5、6会議室(Web併用)



次 第

1. 開 会
2. 挨 拶
3. 議 事
 - 1) 新たな九州圏広域地方計画について
 - 2) 九州ブロックにおける社会資本整備重点計画について
4. 意見交換
5. 閉 会

1. 開会

(事務局)

第9回九州圏広域地方計画協議会および九州ブロック国土交通懇談会を開催します。

本日はお忙しい中、両会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。本日の司会を務めます、九州地方整備局九州圏広域地方計画推進室副室長の宇梶でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、両会議を合同で開催することにつきまして、説明いたします。広域地方計画は、国土の利用、整備、保全に係る総合的、基本的な事項を定めるものであり、社会資本整備重点計画は、広域地方計画との調和を図りながら、社会資本整備の具体的なプロジェクトを定めるものです。この両計画は、大変密接な関係にあり、6月の計画決定に向け、同じスケジュールで作業を行っています。加えて、両会を構成する皆様の多くが重複していることもあり、会議の効率的な進行のため、合同で開催することとなりました。何卒ご理解のほど、よろしくお願いいたします。

続いて、九州圏広域地方計画協議会及び九州ブロック国土交通懇談会を代表して、九州圏広域地方計画協議会 会長 池辺和弘様よりご挨拶をお願いいたします。

2. 挨拶

(九州圏広域地方計画協議会会長 池辺)

ただいまご紹介いただきました九州圏広域地方計画協議会の会長を務めさせていただいております、一般社団法人九州経済連合会会長の池辺和弘でございます。よろしくお願いいたします。第9回九州圏広域地方計画協議会及び九州ブロック国土交通懇談会の合同開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

全国計画である第3期国土形成計画は、時代の重要な岐路に立つ国土として、人口減少等の加速による地方の危機や巨大災害リスクの切迫、気候危機、国際情勢の不安定化など、直面する課題に対する危機感を共有し、こうした難局を乗り越えるため、総合的かつ長期的な国土づくりの方向性を定めるものです。

本計画では、目指す国土の姿として、「新時代に地域力をつなぐ国土」を掲げ、その実現に向けた国土構造の基本構想として、「シームレスな拠点連結型国土」の構築を図ることとし、令和5年7月28日閣議決定されました。この全国計画を踏まえ、新たな九州圏広域地方計画では将来像としてアジアの成長センター「アイランド九州」を掲げています。これは海に囲まれた九州圏に暮らし、関係するすべての人が「九州はひとつ」として連携し、個性や魅力を発揮しながら、力を合わせて様々な目標に向けて進むことで、アジアの成長をリードし、国内だけでなく世界に誇れる圏域を目指すものです。これまで、国や地方の行政機関そして経済団体において、計画策定に向けて議論を重ねてまいりました。具体的には、昨年10月に計画の「中間とりまとめ(案)」を公表し、その後、市町村から計画提案をいただき、また、有識者会議の開催、国土交通省本省における関係省庁との協議、そして、構成機関の皆様との継続的な協議などを重ねまして、本日、皆様のお手元にお配りしております「計画原案」

をとりまとめております。

本日は、この計画原案の内容をご審議いただき、ご了承いただけましたら、パブリックコメントの手続きを進め、最終的に国土交通大臣の決定に向けた準備を進めさせていただきます。

また、本日は「九州ブロックにおける社会資本整備重点計画」を検討する「国土交通懇談会」との合同会議となっておりますので、効率的な会議の運営にご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。私からの冒頭挨拶は以上でございます。

(事務局)

ありがとうございました。ここで報道関係の皆様にお願いがございます。これより報道関係者席にて取材をお願いします。

両会議の出席者につきましては、本来、皆様一人一人にご紹介いただくところですが、時間の関係により、お手元に配布しております出席者名簿をもって代えさせていただきます。併せて、本日の協議会の定足数ですが、構成員 30 名のうち、Web も含め 27 名にご出席いただいております。本協議会は成立していることをご報告いたします。また、懇談会については、構成員 20 名のうち、Web も含め 20 名にご出席いただいております。ご報告いたします。

次に、両会議は Web 併用となっております。Web の方は、画面に表示されている資料をご覧になりながら説明をお聞きください。カメラやマイクは、発言をされる時のみオンにしてください。また、音声が届かない等の不具合があった場合には、チャット機能もしくは画面上にありますリアクションボタンにてお知らせください。

それでは、これより議事に入ります。ここからの進行は、両会議を代表いたしまして、池辺会長にお願いしたいと存じます。池辺会長、よろしくお願いいたします。

3. 議事

(池辺会長)

早速ですが、議事に入ります。進め方として議事 1 の「九州圏広域地方計画について」及び議事 2 の「九州ブロックにおける社会資本整備重点計画について」続けて説明をいただき、その後、皆様からご質問やご意見をお願いいたします。それでは、議事 1 について、事務局から説明をお願いします。

(1) 新たな九州圏広域地方計画について

(事務局:九州圏広域地方計画推進室長 川埜)

九州圏広域地方計画推進室長の川埜でございます。資料 1 から資料 5 まで説明します。まず、資料 1 の 1 ページをご覧ください。広域地方計画と地方ブロックにおける社会資本整備重点計画について、その 2 つの計画の関係性をまとめたものです。左側の広域地方計画ですが、根拠法として、国土形成計画法に基づき、令和 5 年に第三次国土形成計画（全国計画）が策定され、これを踏まえて全国の 8 ブロックにおいて、計画期間 10 年として、国土の利

用、整備及び保全を推進するための総合的かつ基本的な計画として定めるものです。右側の社会資本整備重点計画ですが、第6次社会資本整備重点計画が令和8年1月に閣議決定され、それを踏まえ、全国10ブロックにおいて、令和12年度までの5年間を計画期間として、道路、空港、港湾、下水道、河川等の社会資本整備事業について、具体的な計画を定めるものです。

2ページをご覧ください。両計画の検討スケジュールです。直近のものに限られますが、九州圏広域地方計画については、令和7年9月に第8回協議会を開き、同年10月に中間とりまとめ(案)を公表しています。その後、市町村提案等を受け、今回の第9回協議会にて、計画原案をお示しするものです。また、社会資本整備重点計画は、有識者等との意見交換を実施し、令和8年1月の第6次社会資本整備重点計画の閣議決定を受け、本日、九州ブロック国土交通懇談会を開催するものです。その後、パブリックコメントを経て、6月頃の計画決定を念頭に置いているところです。

続きまして、資料4をご覧ください。ここからは、九州圏広域地方計画についての説明です。第8回有識者会議で出た意見です。道路、エネルギー、交流、観光、人材育成、防災など、幅広い分野で貴重なご意見をいただき、計画原案に反映しています。

続きまして、資料5ですが、市町村からの計画提案になります。次のページをご覧ください。令和7年10月24日から11月25日まで約1か月、九州圏内の市町村へ計画提案を募集し、1市1町から計4つの計画提案が提出されました。その内容については、次のページにまとめています。いずれも計画原案に反映している旨、申し上げます。

続きまして、九州圏広域地方計画の内容について説明します。資料2が計画原案本文になります。今回、資料3説明資料に基づき説明します。資料3の1ページが九州圏広域計画原案の目次です。第1部九州圏の現状と課題、第2部九州圏の将来像、第3部将来像実現へ向けた目標、第4部九州圏における主要な施策(プロジェクト・施策)の構成になっております。

2ページですが、本計画の意義です。第1次から第5次まで「九州地方開発促進計画」を策定し進めてきました、その間に国土形成計画法の策定に伴い、九州圏広域地方計画を第1次(平成21年)、第2次(平成28年)と策定してきました。今回第3次として策定するものです。対象区域は九州圏の7県で、計画期間は2050年、さらにその先の長期を見据えつつ、今後概ね10年間の計画期限で策定をするものです。

3ページをご覧ください。まず、第1部の現状と課題になります。九州圏の位置は、アジアの主要都市とも近接するアジアの玄関口(ゲートウェイ)に位置づけられ、人口の動向は、2024年時点で約1,248万人であり、2050年までに全体の18.8%、235万人が減少見込みという予測になっています。

4ページをご覧ください。圏域の構造です。福岡市と北九州市を中心に連携した都市圏が形成され、東京圏、大阪圏、名古屋圏の三大都市圏に次ぐ大都市圏となっています。また、九州7県においては、政令指定都市もしくは県庁所在地等を中心に、圏域の各地に人口10万人以上の都市がバランスよく分散された圏域構造となっています。公共交通では、人口減少

やマイカー需要の増加により、利用者が長期的に減少傾向にあるという実情もあります。

5 ページをご覧ください。産業面から見た九州圏の現状です。まず、農業産出額は、全国の20.1%ということで高いシェアを占め、漁業、林業を含めても全国シェアが非常に高い地域となっています。また、IC 集積回路の生産額は我が国全体の約半分を占めている状況であり、北部九州には4社の自動車組立工場が立地している特徴もあります。流通の関係は、他圏域との貨物の流動量については、隣接する中国圏が最も多く、続いて近畿圏、首都圏となっています。九州圏内の貨物の流動は、福岡県を中心とし、県間流動が多いという特徴があります。

6 ページをご覧ください。観光・交流です。コロナ禍により減少はしましたが、2024年の外国人の宿泊者数は、2019年比で約4割増となり、コロナ禍前よりも増加している状況です。

7 ページをご覧ください。災害と環境保全です。九州圏では従来から自然災害による甚大な被害に多く見舞われてきました。今後も風水害、土砂災害、それから火山災害及び南海トラフ地震等の災害リスクが高まっており、これに対する対応が急務となっています。一方では、屋久島、奄美大島、徳之島の世界自然遺産もあるなど、緑豊かな地域でもあります。加えて、再生可能エネルギーは、他圏域に比べ出力制御が非常に多い特徴もあります。

続きまして8ページ、第2部九州圏の将来像です。九州圏の将来像として、「アジアの成長センター『アイランド九州』～個性・魅力を発揮しながら、ひとつにまとまり発展し、誇れる九州～」を掲げています。この将来像の実現に向けて、目標1「成長エンジン～交流と変化を競争力へ～」、目標2「自立型広域連携～快適で幸福な暮らしへ～」、目標3「強く美しいアイランド九州～持続可能でしなやかな社会へ～」の3つの目標を掲げています。

9 ページをご覧ください。第4部九州圏における主要な施策です。将来像実現に向けた3つの目標の実現に向け7つのプロジェクトを推進します。

それではプロジェクト1から7について説明します。

10 ページをご覧ください。プロジェクト1「アジア、そして世界と日本の交流・連携・成長拠点プロジェクト」です。第1部現状と課題でも説明しましたが、アジア諸地域に近接した立地特性をいかして、海外との交流・連携を促進して国際競争力を強化し、九州圏がまず元気に成長し、アジアの成長センターとなって、アジアの経済を牽引する存在となることを目指していきます。具体的には、アジアのゲートウェイとして、アジア諸地域との交流を円滑かつ効率的に行うとともに、交流を国内各圏域へ拡大するため、シームレスな陸海空のネットワーク整備を目標に掲げています。また、経済交流連携を推進し、グローバル人材育成に応用していくことも重要であると認識しています。11 ページでは、隣接する地域圏とのシームレスな総合交通体系の構築や自然環境や歴史、文化、景観等を活用した交流・連携の促進を掲げています。

12 ページをご覧ください。プロジェクト2「ひとつにまとまり活力を創出する交流・連携プロジェクト」です。中枢中核都市から地方の中心都市を核とした地域生活圏や小さな拠点を核とした集落生活圏、これらを陸海空の交通ネットワークでシームレスに連結することにより、圏域内での交流連携を促進し、九州圏全域での活力を創出していきます。具体例として、中枢中核都市内の交通機能の充実と拠点連結型圏域の構築や高規格道路ネットワーク、

幹線鉄道ネットワークの充実強化を掲げています。

13 ページをご覧ください。プロジェクト 3「強みや特色をいかした持続可能な産業振興プロジェクト」です。今回の第三次国土形成計画は、産業分野の目標が非常に厚く書かれ、充実したものとなっており、これらもしっかり進めていきます。また、基幹産業の強化のために、DX・GXの推進や社会経済の状況に対応した各産業の基盤整備を推進していきます。さらに経済安全保障と産業の生活拠点の形成強化も重要です。加えて、稼げる農林畜水産業を実現することで発展を促進していきます。観光産業では、観光アイランド九州の発展を促進し、加えて、産官学との連携、研究開発の推進等により、スタートアップ企業、先端技術等の新たな産業の支援を促進していきます。

14 ページをご覧ください。全国の約半分を占める産業用先端半導体産業の新生シリコンアイランド九州の実現を図っていきます。また、カーアイランド九州の発展も進めていきます。

15 ページですが、フードアイランド九州の更なる発展として、生産性向上に向けた取り組みや防疫体制の連携強化など、様々な取組を進めていきます。

16 ページは観光アイランド九州の形成として、平尾台の九州自然歩道の活性化であったり、九州 MaaS であったり、サイクルツーリズム等、様々な取組を連携して進めていきます。

19 ページをご覧ください。プロジェクト 4「中枢中核都市を核とした魅力あるまちづくり推進プロジェクト」です。中枢中核都市等の拠点機能を強化して、都市コミュニティを再生し、多世代が交流できる拠点の活性化を図っていきます。また、広域圏内の情報ネットワークを強化し、各県が自立しつつも、圏域一体となった自立的な経済循環システムを構築していきます。具体例としては、中枢中核都市等を核とした自立型広域連携として、中枢中核都市における高次の都市機能やサービス産業の集積や国際競争基盤の整備というようなことを進めていきます。また、九州大学学術研究都市づくりや福岡都市高速 3 号線（空港線）の延伸事業、20 ページには、九州各地のまちづくりの事例を掲げています。

22 ページをご覧ください。プロジェクト 5「離島・半島・中山間地域・都市をつなぐ地域生活圏形成プロジェクト」です。都市と産業という成長分野も大事ですが、地域において、しっかりとした生活を過ごせる環境を整備することも重要であると考えます。地方の豊かさと都市の利便性の融合、デジタルとリアルが融合した地域生活圏の形成を推進していきます。また、関係人口の拡大・深化、地域を支える多様な人材が活躍できる環境整備を行い、地域の活性化につなげていきます。また、共創による交通活性化と新たなモビリティ社会の実現として、交通関係では、「交通空白」解消等（リ・デザイン）の推進。小さな拠点を核とした集落生活圏の構築による地域生活の形成では、遠隔教育センターを運営し、地域コミュニティの維持・定住に向けた集落生活圏の形成を図っていきます。また、離島や半島と都心部との道路ネットワーク構築も重要な視点なので、計画盛り込んでいます。

23 ページは、二地域居住等の促進による関係人口の拡大や深化や地域を支える人材や資金の確保、官民共創の推進など、これらを通じまして、地域生活圏の形成を進めていきます。

24 ページをご覧ください。プロジェクト 6「経験をいかした防災と豊かな環境の保全・創出プロジェクト」です。第 1 部九州圏の現状と課題でも説明しましたが、九州は災害の多い

ため、防災・減災、国土強靱化を推進し、災害リスクの軽減を図り、安全・安心な九州圏の形成を図っていきます。例として、球磨川水系緊急治水対策やインフラの老朽化対策、維持管理も大きな社会的課題となっています。地域インフラ群の再生戦略マネジメントによる高質化も進めていきます。

25 ページは、地域防災力の強化として、企業と連携した防災力の維持・強化、都市防災機能の強化として、事業継続計画の策定、都市の耐震・防災対策などを進め、防災力強化に努めます。また、平常時からの復興事前準備を促進していきます。

26 ページは、環境の視点からグリーン国土の創造として、健全な生態系の保全・再生を図っていきます。また、カーボンニュートラルの実現を一層推進していきます。

最後のプロジェクトになりますが、27 ページをご覧ください。プロジェクト7「国内他圏域との連携プロジェクト」です。国内他圏域との交流連携、広域的な機能の分散と連結強化等により、「国土の均衡ある発展」を実現していきます。質の高い交通やデジタルネットワークの強化を通じ、国内とシームレスな連結強化を図り、全国的な回廊ネットワークの形成を図ります。具体例として、経済連携や災害時の冗長性確保を踏まえ、幹線交通体系の構築・高質化を推進します。これらにより、近畿圏、中国圏、四国圏を結ぶ西日本回廊を形成し、他圏域との連携を強化します。物流効率化の観点では、地域連携モデル促進事業なども進めていきます。その他、観光分野との連携や、広域防災という意味でも連携を進めていきます。以上が計画の内容です。

28 ページは、2050 年の九州圏の将来像イメージです。左側、アジア地域との関係では、ゲートウェイ機能を強化し、国際競争力を強化していきます。また、右側は、本州各圏や四国圏との連携を図っていきます。九州圏の中では産業関係で、新生シリコンアイランド九州、カーアイランド九州、フードアイランド九州、観光アイランド九州、これを進めていきます。また、それぞれの県における発展の観点では、都市機能の強化、地域交通ネットワークを官民共創による持続可能なものとし、離島半島・中山間地域・都市をつなぐ地域生活圏を形成していくことで、多様な人材が活躍できる環境を作っていきます。国土基盤の高質化、強靱化、豊かな自然環境の保全やカーボンニュートラルの実現を進めていきます。

(池辺会長)

ありがとうございました。続いて、議事 2 について事務局から説明をお願いします。

(2)九州ブロックにおける社会資本整備重点計画について

(事務局:企画部長 青野)

九州ブロックにおける社会資本整備重点計画について、九州地方整備局の青野が説明します。資料 6 が計画原案の本文になっており、説明は資料 7 を用いておこないますので、ご参照をお願いします。

先ほど、九州圏広域地方計画で現状と課題の説明があったとおり、九州ブロックは、豊かで美しい自然環境と魅力的な観光資源が非常に豊富で、アジアの玄関口として各国との経済

交流が活発な地域性あります。さらに半導体をはじめとし、全国と比較しても成長著しい産業が多数立地する地域でもあります。一方で、全国に先駆けて進行する人口減少や少子高齢化、また、激甚化・頻発化する自然災害など深刻な地域の課題や危機を抱えています。本日は、このような課題や危機に対して、社会資本整備重点計画に掲げる4つの重点目標とその具体的な取組及び期待される効果について説明します。

1 ページ目は、社会情勢の変化です。最初の社会資本整備重点計画策定から現在に至るまでの変化を記載していますが、先ほど九州圏広域地方計画で説明した内容と同じであるため説明は割愛します。

2 ページ目は、4つの重点目標を設定しています。この全国統一の目標をそれぞれのブロックで取り込む内容を盛り込んだものが地方ブロックにおける社会資本整備重点計画になります。

3 ページ目をご覧ください。重点目標1「活力のある持続可能な地域社会の形成」です。活力ある持続可能な地域社会の形成に向けて、コンパクト・プラス・ネットワークを踏まえた広域連携による地域経済の好循環を図っていき、まちづくりと一体となったインフラの再構築を進め、九州の自然や歴史資源をいかした安全・安心に暮らせる地域づくりを進めていきます。具体的な取組として、九州横断自動車道の蘇陽五ヶ瀬道路などの地域外を結ぶ道路等の交通ネットワークの整備を推進することで、例にあるように九州横断自動車道（山都中島西IC～山都通潤橋IC）開通後の整備効果として、交通量は全体2割増加しているが、九州横断自動車道と国道445号に交通が分散され、渋滞緩和や利便性が向上するなど、整備効果が期待されます。また、人口減少に対応したインフラストックマネジメント体系へのバージョンアップです。予防保全の考えに基づくインフラメンテナンスへの転換として、例えば、老朽化した港湾施設や砂防施設等の健全化を確保する取組を推進します。続いて、地域の人々が集まりつながりが生まれる公共空間の創出です。例えば、松浦川水系厳木川の中島地区では、この地区周辺は道の駅、認定こども園や小中学校があり、「かわとまち」をつないだ地域活性化が期待されており、河道整正に通路や広場の整備を行い、憩いと賑わいの場を創出する取り組みを行っています。取り組みの一つとして、地域住民や小学生が環境学習や清掃活動に熱心かつ主体的に参画している活動が行われており、このような民間の活力や創意工夫をいかした取組を推進していきます。

4 ページ目をご覧ください。重点目標2「強靱な国土が支える持続的で力強い経済社会」です。高規格道路の整備、港湾や空港の機能向上により、交通ネットワーク及びゲートウェイ機能の強化をはかり、国際競争力の高い産業、ビジネス環境の整備を推進していきます。合わせて、頻発する豪雨災害や地震・津波・火山噴火など様々な自然災害に対し、強靱かつしなやかな対策を進め、安心して生活できる地域、経済活動が営める九州ブロックをつくりまします。具体的な取組としては、経済安全保障に資する企業立地周辺の高規格幹線道路等のインフラ整備により、さらなる交流圏の拡大、アクセス性の向上や物流の効率化が期待できます。例えば、JASM熊本工場などの大規模な企業立地に対して、中九州横断自動車道やその他周辺インフラを重点的、戦略的に整備することで、輸送時間の短縮や走行性向上が期待できるな

ど、半導体関連企業のヒアリング結果からもわかっています。また、博多港のアイランドシティコンテナターミナルでは、国際物流ターミナルの整備により、国際船舶貨物輸出を強化し、アジアの成長センターとして経済の牽引を目指し、ゲートウェイ機能の強化のため、陸海空シームレスなネットワーク整備を推進していきます。続いて、激甚化・頻発化し、切迫する災害に対する「事前防災」の加速化、深化です。例えば、鹿児島県川内川の河川改修を推進し、令和12年度までに必要な流下能力を確保した国管理河川の整備完了率を41%まで引き上げ、気候変動を踏まえた洪水対応を進めていきます。また、被災後の迅速な復旧、復興も見据え、あらゆる関係者の総力を結集した平時からの防災体制の強化として、災害リスク情報等の充実と活用による防災体制の構築を図ります。例えば、洪水浸水想定区域が指定されている市町村のうち、最大クラスの洪水に対応したハザードマップを作成した後公表し、避難訓練をした市町村の割合を100%にする目標を掲げ、進めています。

5 ページ目をご覧ください。重点目標3「インフラ分野が先導するグリーン社会の実現」です。カーボンニュートラルの実現を目指し、九州の豊かな自然を活かし、自然と調和した持続可能な地域づくりを進めると共に、利用者目線のインフラ空間を構築し、九州を人が集い、交流する魅力ある地域へと高めていきます。具体的な取組として、カーボンニュートラルの実現に向けた基盤整備です。左下にカーボンニュートラルポートのイメージ図を掲載していますが、八代港では、「港湾脱炭素化推進計画」に作成し、太陽光発電の導入や水素・アンモニア等の受け入れ環境の整備、ブルーカーボン生態系（藻場）の保全・創出などにより、カーボンニュートラルポートの実現を目指します。また、グリーンインフラ活用と自然共生では、宮崎県の大淀川水系流域プロジェクトでは、生態系ネットワークを支える河川内外の生息場をグリーンインフラとし、多自然づくりなどグリーンインフラを保全・創出する取り組みを実施しています。また、産学官民連携も進んでおり、地域一体となって推進しています。

6 ページ目をご覧ください。重点目標4「戦略的・計画的な社会資本整備を支える基盤の強化」です。少子高齢化による建設業の担い手不足に対応するために官民が連携したメンテナンス体制の確立やICT新技術の利活用やデータ連携基盤整備を進め、持続可能な地域づくりや快適な暮らしを過ごすことができる九州を目指します。具体的な取組としては、海の中道海浜公園では、官民連携（Park-PFI）により、民間資金を活用して、カフェ、宿泊施設などの滞在型レクリエーション拠点を整備し、更なる魅力づくり、地域振興を図ります。また、新技術DXによるインフラ管理・運用の高度化を図ります。大分港の大在西地区などで新技術を活用した複合一貫輸送ターミナルの整備を推進し、国土交通省が推進する貿易・物流DXのための共通データプラットフォームへの接続法人数を拡大して、物流業務の効率化と生産性向上を図ります。また、インフラの老朽化に対応した取組として、インフラメンテナンス九州フォーラムと市区町村会議を同時開催し、インフラメンテナンスに関する情報提供や自治体が抱える課題を認識・共有し、解決するための地域支援に取り組んでいます。

以上のように、九州ブロック社会資本整備重点計画は、4つの目標をバランスよくかつ着実に達成していくことが必要不可欠です。社会資本整備を通じて、誰もが快適に過ごし、かつ経済が力強く躍動する九州づくりをしていくためにも、今後も皆様のご協力をお願いします。

す。

(池辺会長)

ありがとうございました。それでは、次第4、意見交換へ進みたいと思います。

4. 意見交換

(池辺会長)

議題1の「九州圏広域地方計画について」及び議題2の「九州ブロックにおける社会資本整備重点計画について」、ご意見やご質問がありましたらお願いいたします。それからWeb参加の方も何かありましたら、リアクションボタンを押してお知らせください。

(九州経済産業局)

九州経済産業局でございます。お詫びとお礼ということでお話をさせていただきます。この広域地方計画につきましては、長い時間かけてご準備をいただいている中、昨年10月に中間とりまとめ(案)が公表されました。その後、高市政権において、地域で産業クラスター計画の作成やインフラ支援、ソフト支援というような話があり、その関係で非常にご迷惑おかけし、まずはお詫びを申し上げます。

また、我々の地域未来戦略につきましても、県の皆様、そして本日ご出席の池辺会長をはじめとする産業界の皆様、さらに事務局の皆様のご協力により、3月末にまとめることができました。その中で、この地域未来戦略について、今回の広域地方計画でも、68ページの「他計画・施策と連携」の中に記載していただき、本当にありがとうございます。特に、この広域地方計画の中では、先ほどご説明にありました「成長エンジン」のところ、プロジェクト3で半導体や、自動車、GXなどの、中堅企業や中小企業をどうやって盛り上げるのかということも書き込んでいただきましたし、また、自立型広域連携でも、商店街をはじめとするサービスをどのようにしていくかなどについても入れていただきまして、本当に感謝を申し上げます。

参考でございますが、我々の方で準備をした地域未来戦略が出ていまして、プロジェクト6にありました防災・減災、国土強靱化ということも、5本の柱の一つに入れさせていただいたことを付言させていただきます。今後、我々の計画の方もいろいろと進んでまいりますので、この広域地方計画との連携ということで、しっかりやっていきたいと思っておりますので、本日お集まりの皆様方のご協力を引き続きよろしくをお願いいたします。私からは以上です。ありがとうございました。

(池辺会長)

ありがとうございました。事務局からコメントがありましたらお願いします。

(事務局)

引き続き連携のほど、よろしく願いいたします。

(池辺会長)

その他、ご発言がありましたらお願いいたします。

無いようでしたら、Web で参加の福岡県からいかがでしょうか。

(福岡県)

福岡県でございます。本県から広域地方計画の方で感染症対策についてご提案をさせていただきました。九州はアジアの玄関口に位置しており、アジアとの地域・経済的な結びつきが強くあります。新興感染症や、人獣共通感染症が流行するリスクが高いということで、その影響を最小限に抑えるために、九州圏が主体となつての感染症対策への取組は大きいと考えているところです。本県では、人と動物の健康、環境の健全性が一つという「ワンヘルス」を推進しており、施策の基本方針の一つに「人獣共通感染症対策」を掲げています。今回の計画原案においては、自然環境の保全、防疫体制の連携強化といったものは、本県が推進するワンヘルスをはじめとした各種施策と考え方、方向性を同じくするものです。今後とも、国の関係行政機関や、各県、経済界とも連携しながら、九州圏の発展に資する目標の達成に向けて取組を進めていきます。どうぞ、ご協力をお願いいたします。

(池辺会長)

ありがとうございました。他に構成機関からもご発言をお願いできればと思いますが、いかがでしょうか。

(九州商工会議所連合会)

九州商工会議所連合会でございます。略して九商連と言っていますが、九商連は、九州地域の 74 商工会議所、それに沖縄県の会議所を含め 79 の商工会議所で構成をしております。各地の会議所は、それぞれの会員事業者の成長や、地域経済の活性化のために、いろいろな地域の特性をいかしながら、様々な活動を進めているところです。こうした各地の取組を、九州全体の成長、あるいは広域的な発展に進めていくために、私どもとしては、各地の会議所の声を集約して、広域的な視点で国や関係機関に働きかけをしています。具体的には、例えば半導体分野については TSMC をはじめとした、半導体関連産業の集積効果を九州全体に波及させるために、物流や人の往来を支える広域的な基盤整備が不可欠という認識のもとで、中九州横断道路や熊本都市圏の広域の道路について、ここ数年重点的に国土交通省に対して陳情をしているところです。また、食についても、九州地域戦略会議のもとで、九商連がプロジェクトリーダーとなつて、九州の食輸出プロジェクトを推進しております。九州産の農林畜水産物や食品産業の強みを海外進出に繋げることを目的に、九州各県、それから九州経済産業局、九州農政局などと連携しながら、品目を絞って、市場も絞って、重点的な取組と

いうことで進めております。これは九州全体を一つのブランド、供給圏として捉えた、広域的な産業振興の取組の一例です。こうした、私ども経済界の現場の取組が、今回の九州圏広域地方計画と相互にリンクして、計画をどんどん推進していただくことで、九州全体としての取組が前に進んでいくことを期待しているところです。どうぞよろしくお願いいたします。

(池辺会長)

どうもありがとうございました。事務局からコメントがあればお願いします。

(事務局)

この計画を作った後、フォローアップもやっていきますので、この計画の精神を、実際に現場で発展させていくことが重要だと思っています。引き続きよろしくお願いいたします。

(池辺会長)

ありがとうございました。その他ご発言等がありますか。

(九州地方環境事務所)

九州地方環境事務所の番匠です。計画のとりまとめ、どうもありがとうございます。環境省としても、今後のまちづくりに関して、環境の取組が不可欠になってくるという認識で取り組んでいます。今回の計画においても、カーボンニュートラルであったり、自然共生であったり、循環型社会であったり、そういった要素をしっかりと取り込んでいただいています。ありがとうございます。環境省としても、そうした側面から環境省ができることを協力してやらせていただければと思っています。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

(池辺会長)

どうもありがとうございました。事務局からコメントがあればお願いします。

(事務局)

引き続きよろしくお願いいたします。

(池辺会長)

それでは九州運輸局の日向弘基局長からもご発言いただければと思います。よろしくお願いいたします。

(九州運輸局長 日向)

ご紹介いただきました九州運輸局長の日向です。皆様には本計画中の交通や観光の重要な課題について、幅広いお立場からご議論を賜り、誠にありがとうございました。九州運輸局

では、各地で課題となっている交通空白の解消や持続可能な地域交通の確保に向け、地域の様々な取組を支援しています。また、観光分野では、本年3月に閣議決定された第5次観光立国推進基本計画、これに基づき、目指すべき2030年の姿である戦略産業として日本の魅力・活力を次世代にも持続的に継承・発展させていく観光、この観光の実現に向けた施策を推進することとしています。今後とも九州圏のさらなる発展に向け、関係者の皆様と連携し、取り組んでいきます。よろしくお願いいたします。

(池辺会長)

どうもありがとうございました。続いて、九州地方整備局の垣下禎裕局長、よろしくお願いいたします。

(九州地方整備局長 垣下)

九州地方整備局長の垣下でございます。九州圏広域地方計画、そして九州ブロックの社会資本重点整備計画がいよいよパブリックコメントへ向かうステージに来ました。ここに至るまで、非常に長期にわたり、構成機関の皆様も、関係者の皆様も、多大なるご尽力、そして様々なご意見をいただき、改めて心よりお礼を申し上げます。

特に、九州圏広域地方計画について、事務局から具体的に説明しましたが、アジアの成長センター『アイランド九州』という明確な将来像を掲げて、九州が、日本そして広くアジア、世界へと、こうした経済の一つの大きな牽引力のある圏域を目指すことを掲げています。九州圏は、地域的な位置づけ、あるいは今ある産業の状況、非常に全国的にも特徴の多いものがあります。また、この計画の中にも触れられていますが、数多くの自然災害に見舞われてきた経験がある。こうした様々な蓄積、あるいは経験をもとに、地域は非常に大きな資産を持っているものと考えています。これが3つ目の目標として掲げている「強く美しいアイランド九州」、これの力となるものだと考えています。また、九州本島だけではなく、離島、半島も含め様々な多様性があります。まさにこれを強みにして、九州はひとつというところの成長の姿の基盤となるものだと考えています。事務局としても、皆様の多大なご尽力により、非常によくまとまった計画になったと考えているところです。これをより現実のものとしていくためには、引き続き皆様のご協力が不可欠です。自治体の皆様、経済界の皆様、そして地域の皆様、こうした非常に多くの関係の方々との連携して、この九州圏の力をより大きなものへと発展させていく必要があります。国土交通省としても、しっかりこの計画に基づき、様々な施策に取り組んでいきたいと思っています。

(池辺会長)

どうもありがとうございました。皆様のご発言、何かまだ言い残したことがあれば承りますが、よろしいでしょうか。

それでは特に無いようですので、両計画については、本日の会議におけるご意見、今後の

パブリックコメントの内容を含めまして、事務局において計画の最終案を作成することとし、改めて会議は開催せず、それぞれの会長にご一任いただくことでお願いしたいと思いますが、皆様それでよろしいでしょうか。

[異議なし]

ありがとうございました。それではこれで本日予定されました議事は終了いたしました。皆様のご協力で議事がスムーズに進行できたことを感謝申し上げます。ここで進行役を司会の方にお返しいたします。

5. 閉会

(事務局)

池辺会長、議事の進行、誠にありがとうございました。

それでは、閉会にあたりまして、九州圏広域地方計画協議会会長池辺和弘様よりご挨拶をお願いいたします。池辺会長、どうぞよろしくをお願いいたします。

(池辺会長)

皆様のご協力で議事がスムーズに進行できたことに改めて感謝申し上げます。新たな九州圏広域地方計画及び九州ブロックにおける社会資本整備重点計画は、6月中に決定予定の両計画は、本日の計画原案のとりまとめに至るまで、構成機関の皆様には長期にわたり大変ご尽力をいただきありがとうございました。

この新たな九州圏広域地方計画については、九州圏のグランドデザインとして、これだけ多くの関係者が一堂に会し、また時間をかけて協議し、合意形成を経てとりまとめられる、他にはない計画ではないかと感じております。これからの10年、九州だけではなく、この九州がリードしていく日本、それからアジアにとって非常に大きなターニングポイントの時代になると思っております。計画の中にもありましたけれども、社会資本を整備した九州には、新生シリコンアイランドとしてTSMCも来ていただいております。これは、社会資本がきちんと整備される、きちんとTSMCの作った製品が出ていけるような社会資本があるということは我々日本のためだけではなく、台湾からの期待も非常に大きいものだと思っております。本日協議いたしました原案ですが、この計画を着実に実行して、できれば加速して実行して、より九州がアジア、日本をリードしていける場所になるように期待しております。本日は本当にお疲れ様でございました。ありがとうございました。以上でございます。

(事務局)

ありがとうございました。続きまして、九州ブロック国土交通懇談会会長 九州地方整備局長 垣下禎裕よりご挨拶申し上げます。

(九州地方整備局長 垣下)

改めまして、九州地方整備局でございます。繰り返しになりますが、この両計画、今日ここに池辺会長のご尽力のもと、パブコメを実施するための原案がとりまとめられました。構成

員の皆様、そして、この議論を非常に活発に進めていただいた池辺会長にも、改めてお礼を申し上げます。大変ありがとうございました。今後、6月中の計画策定を目指しますが、アイランド九州、そしてこの美しい九州というところをしっかりと充実していくために、引き続き、我々としても努めていきます。今日は長い時間、本当にありがとうございました。

(事務局)

ありがとうございました。事務局より、皆様にお願いがございます。重ね重ねになりますが、お手元のファイリングされた資料につきましては、回収しますので、そのまま机に置いて退出をお願いします。なお、議事次第及び出席者名簿は、お持ち帰りになられても結構です。

また、本日の議事要旨につきましては、確認後公表しますので、よろしくをお願いします。

それでは、これもちまして、第9回九州圏広域地方計画協議会および九州ブロック国土交通懇談会を閉会します。誠にありがとうございました。